



## 電磁波シールド・放射線防護服等を開発

尾州織物の厚手織技術を応用し、炭素繊維や金属糸を材料として電磁波から物・人を遮蔽する電磁波シールド、吸収繊維イーキャップを開発、生産している。また、慶応大学教授(放射線技師)の助言を得て、軽くて動きやすい放射線防護服も開発している。

### 業況等の動向について

#### 異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

尾州の厚手織技術を他の素材で応用したいと考え、炭素繊維、金属糸に着目し電磁波シールド材の開発に取り組む。同時に慶応大学教授(放射線技師)の助言を得て、軽くて動きやすい放射線防護服の開発も手がけることになった。

マーケティングについては、世の中になくものを作っているのだから必要ないと思っている。今後、新たに市場を開拓していく。

#### 参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

まだ開発段階であり、成果はこれから出していきたい。困難なこととしては新しい製品のため公的機関、関連先の理解を得ることが大変であった。

#### 業況等について

毛織物の製造業、各種織物の修整加工及び既製品の縫製委託加工を手掛けてきた。

具体的には、アパレル及び商社等から原糸の支給を受け、紳士、婦人ショー及び展示会見本反物の委託生産を行い、また工業用資材(濾過布の委託生産)の委託生産も手掛けてきた。

業況としては、売上は横ばいで推移しており、同業他社が減少したことにより売上高を維持しているという状況である。

参入した異業種の現況は、売上高が 400 千円、売上高構成比は 20.0%となっている。

繊維加工技術を活かして、炭素繊維や金属糸を材料として、電磁波から物・人を保護、遮断するための電磁波シールド及び吸収繊維イーキャップを開発生産している。

現在は、最終製品ではないため、各企業と商品企画を行っている段階である。今後、試作、チェックを行い、商品化していく予定である。

#### 今後の展望・見通し

県内では品質チェックの機関が利用できないため、他の地域機関と連携し拡大していく方針である。

すでに大手をはじめ多数メーカーから引き合いがあり、商談も進行中である。

#### メリット・デメリット

メリットは織物技術を深く追求し学ぶことで、アイデアが多方面へ広がり、事業分野を展開することができた。

参入先の業界の窓口が開かれないうことと、関連機関で冷遇されることがデメリットにあたる。

#### 異業種参入時のアドバイス

以下の3点である。

- ・企業としてできることを持続していくことが大事
- ・コスト面に気をつけて展開する
- ・同業他社と連携して取り組み、技術を承継し、業界全体を発展させることが大事

### 行政の支援について

#### 異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

以下の3つの制度を利用した。

- ・平成 17, 18 年中小繊維製造事業者自立事業
- ・地域イノベーション創出総合支援事業
- ・愛知県中小企業ものづくり基盤技術開発推進費補助金

#### 異業種参入に際し、行政に対して望む支援

以下の2つの点について望みたい。

- ・長期的な展望をもって支援してほしい。
- ・製品の開発から品質チェックまで窓口を一つで行えるようにしてほしい。

#### 会社概要

設立: 昭和 51 年 7 月

資本金: 1,000 万円

従業員数: 10 名

U R L : <http://www18.ocn.ne.jp/~matuyama/>